

CCE 12.5(1)でのOpenJDKのインストールと移行

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[CCE 12.5\(1\) Oracle JREのOpenJDKへの移行](#)

[12.5\(1\)aインストーラ](#)

[OpenJDKを最新パッチに更新](#)

[手動アップグレード](#)

[OpenJdkUpgradeToolによるアップグレード](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、Contact Center Enterprise(CCE)12.5(1)サーバをOpenJDK JREに準拠するように設定する方法について説明します。

著者 : Cisco TAC エンジニア、Anuj Bhatia

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることを推奨します。

- Contact Center Enterprise(CCE)ソリューション
- OpenJDK

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、特定のハードウェアではなく、CCE 12.5(1)バージョンに基づいています。

このドキュメントの情報は、ラボ環境に置かれたデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。実稼働環境でこれらのタスクを実行する場合は、コマンドの潜在的な影響について理解しておく必要があります。

背景説明

12.5(1)以降のContact Center Enterprise(CCE)アプリケーションでは、Javaランタイム環境としてOpenJDKがサポートされています。このドキュメントでは、OpenJDK JREに準拠するようにCCE 12.5(1)ソリューションを設定するさまざまな方法を紹介し、また、CCEコアコンポーネントの同じトレインでOpenJDK JREを最新パッチにアップデートするために必要な手順についても説明します。簡単にナビゲーションできるように、ドキュメントは次のセクションに分かれています。

CCE 12.5(1) Oracle JREのOpenJDKへの移行

12.5(1)aインストーラ

OpenJDKを最新パッチに更新

CCE 12.5(1) Oracle JREのOpenJDKへの移行

既存の12.5(1) CCEコアコンポーネント (Roggers、ADS、PGサーバなど) は、Engineering Special(ES)55パッチのインストールにより、OpenJDK JREに移行できます。ESの詳細については、次のリンクを参照してください。

- Readme:https://www.cisco.com/web/software/280840583/156517/Release_Document_1.html

- パッチ

[:https://software.cisco.com/download/specialrelease/c5b78f6f2886d0ccac0a2deff528901b](https://software.cisco.com/download/specialrelease/c5b78f6f2886d0ccac0a2deff528901b)

サーバでこの移行を完了するために必要な手順を次に示します。

ステップ1：既存のoracle javaキーストアからすべての証明書をエクスポートします。

`cd %JAVA_HOME%\bin`コマンドを実行し、次のコマンドを使用してすべてのコンポーネントの証明書をエクスポートします。

```
keytool -keystore "C:\Program Files (x86)\Java\jre1.8.0_221\lib\security\cacerts" -export -storepass changeit -alias <certのエイリアス> -file <ファイルパス>.cer
```

ステップ2：サーバにES_55パッチをインストールします。readmeファイルに記載されている指示に従ってください。

注： ES_55をインストールする前に、以前のESをアンインストールする必要はありません。

ステップ3：パッチは32ビットのOpenlogic javaバージョン(1.8 update 272)をインストールし、内部的にすべてのサービスがこの環境を使用して実行するようにします。

ステップ4：インストールが成功したら、java環境変数に正しいOpenJDKパスがあることを確認します。

ステップ5：次のコマンドを使用して、証明書を新しいパスにインポートします。

コマンド`cd %CCE_JAVA_HOME%\bin`を実行し、次のコマンドを使用して証明書をインポートします。

```
keytool -keystore "C:\Program Files (x86)\OpenJDK\jre-8.0.272.10-hotspot\lib\security\cacerts" -import -storepass changeit -alias <cert> -file <filepath>.cer
```

12.5(1)aインストーラ

12.5(1)バージョンにアップグレードされたソリューションでは、新しい12.5(1)aベースインストーラを使用できるようになりました。仮想マシン(VM)にインストールされたJavaランタイム環境を除き、以前の12.5(1)バージョンと同じです。

必要な手順は、アップグレードまたはテクノロジーの更新プロセスと同じです (『インストールとアップグレード』ガイドを参照)。証明書に関しては、証明書がopenJDK java keystoreパスにインポートされていることを確認する必要があります。

12.5(1)a以降の情報をチェックする必要がある既存のESパッチのいずれかをインストールするための評価が行われている場合

- ES_55パッチは、これらのESのES4、ES5、ES7、ES12、ES21、ES22、ES25、ES30、ES33、ES39、ES43、ES3 50'をインストールする必要があります。
- 55パッチに含まれていないES'ES2, ES9, ES11, ES13, ES16, ES17, ES18, ES19, ES20, ES24, ES26, ES27, ES28, ES31, ES32, ES34, ES35, ES37, ES38, ES40, ES42, ES44, ES45, ES46, ES47, ES44 9'はES_55以降にインストールできます。
- これらのESがES_55システムの前にインストールされている場合、JAVAに関連するエラーメッセージが少ない可能性があります。このエラーメッセージは、**12.5.1-ES-Install-Utility.batユーティリティをダウンロードして実行すると修正できます。**
- ES_55が必要であり、ES_55より大きいパッチを適用する前にインストールする必要があります

OpenJDKを最新パッチに更新

CCEアプリケーションには、オープンJDK 1.8バージョンを最新パッチにアップデートする方法がいくつかあります

- 手動アップグレード
- OpenJdkUpgradeToolによるアップグレード

手動アップグレード

ステップ1：最新の1.8バージョンパッチをOpenlogicサイトからダウンロードし、サーバにコピーします。

<https://www.openlogic.com/openjdk-downloads>

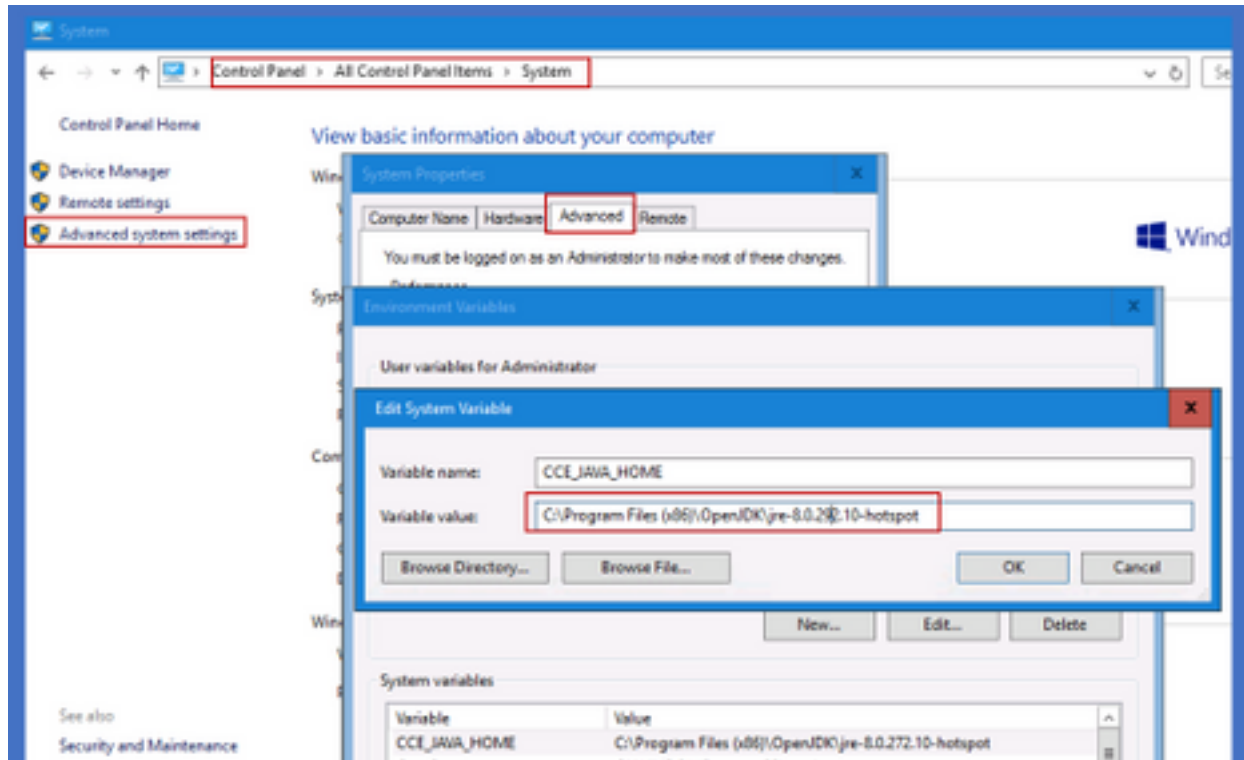
ステップ2：既存のoracle java keystoreからすべての証明書をエクスポートします。

次のコマンドを使用して、**命令cd %CCE_JAVA_HOME%\binを実行し、すべてのコンポーネントの証明書をエクスポートします。**

```
keytool -keystore "C:\Program Files (x86)\OpenJDK\jre-8.0.272.10-hotspot\lib\security\cacerts" -export -storepass changeit -alias <cert> -file <filepath>.cer
```

ステップ3：ステップ1でダウンロードしたJavaアップデートをインストールし、openlogic java readmeファイルの指示に従います。

ステップ4：新しいOpenJDK Java Runtime Environment(JRE)の場所を指すように、CCE_JAVA_HOME環境変数を変更します。



ステップ5：次のコマンドを使用して、証明書を新しいパスにインポートします。

コマンド `cd %CCE_JAVA_HOME%\bin` を実行し、次のコマンドを使用して証明書をインポートします。

```
keytool -keystore "C:\Program Files (x86)\OpenJDK\jre-8.0.292.10-hotspot or new version\lib\security\cacerts" -import -storepass changeit -alias <cert> -file <filepath>.cer
```

OpenJdkUpgradeToolによるアップグレード

ステップ1：最新の1.8バージョンパッチをopenlogicサイトからダウンロードし、サーバにコピーします。

<https://www.openlogic.com/openjdk-downloads>

ステップ2：ダウンロードしたファイルをUnified CCEコンポーネントVMにコピーします。例：
C:\UpgradeOpenJDKTool

ステップ3：既存のoracle javaキーストアからすべての証明書をエクスポートします。

次のコマンドを使用して、`命令cd %CCE_JAVA_HOME%\bin` を実行し、すべてのコンポーネントの証明書をエクスポートします。

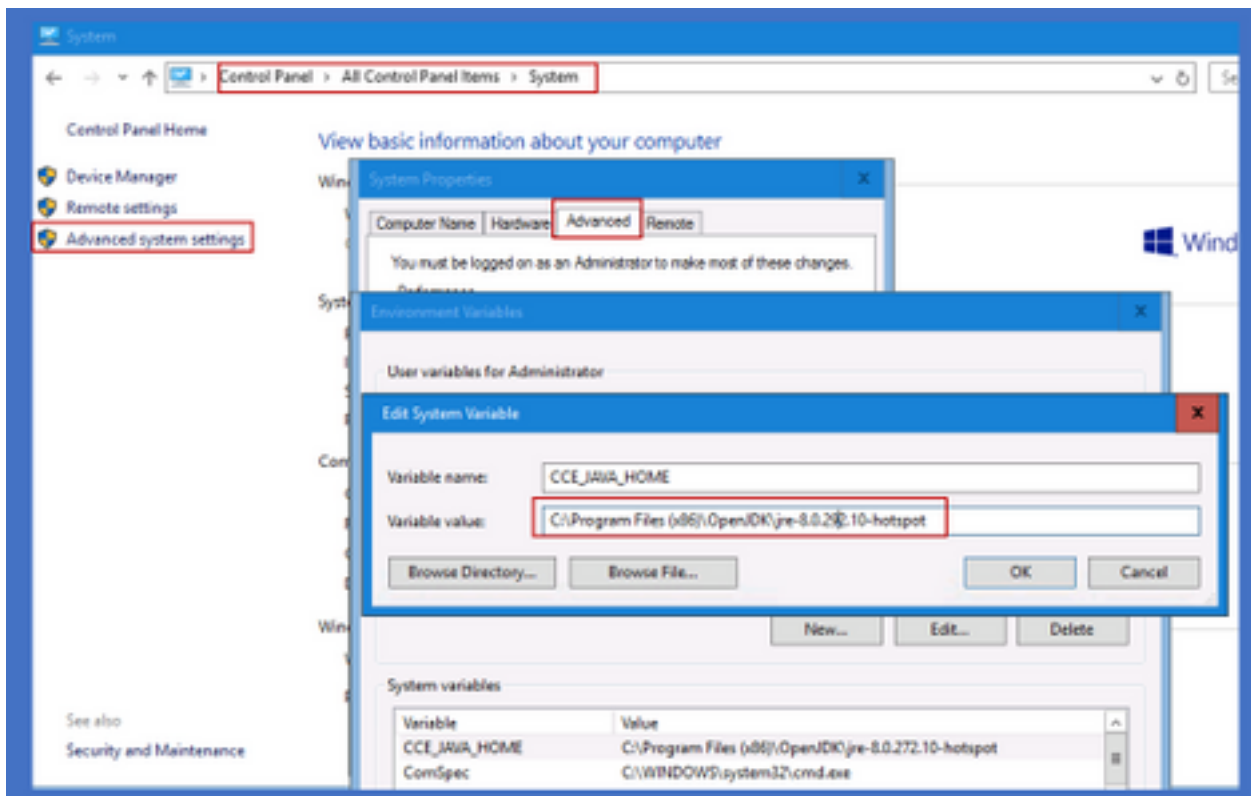
```
keytool -keystore "C:\Program Files (x86)\OpenJDK\jre-8.0.272.10-hotspot\lib\security\cacerts" -export -storepass changeit -alias <cert> -file <filepath>.cer
```

ステップ4：このサイトから任意のローカルフォルダにOpenJdkUpgradeToolユーティリティをダウンロードします。以下に、いくつかの例を示します。C:\UpgradeOpenJDKToolからダウンロードして解凍します

<ahref="https://software.cisco.com/download/home/284360381/type/284416107/release/12.6(1" target="_blank" rel="noopener">[https://software.cisco.com/download/home/284360381/type/284416107/release/12.6\(1](https://software.cisco.com/download/home/284360381/type/284416107/release/12.6(1)

ステップ5：解凍したフォルダからopenJDKUtility.exeを実行し、ReadMeファイルのコマンドに従います。

ステップ6：インストールが成功したら、CCE_JAVA_HOMEパスが更新されていることを確認します。



ステップ7：次のコマンドを使用して、証明書を新しいパスにインポートします。

コマンド `cd %CCE_JAVA_HOME%\bin` を実行し、次のコマンドを使用して証明書をインポートします。

```
keytool -keystore "C:\Program Files (x86)\OpenJDK\jre-8.0.292.10-hotspot or new version\lib\security\cacerts" -import -storepass changeit -alias <cert> -file <filepath>.cer
```

関連情報

- [CVP 12.5\(1\)でのOpenJDKのインストールと移行 – シスコ](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)